

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	W e bデザイン実習 3 A	
科目基礎情報							
開設学科	W e bクリエイター科		コース名			開設期	前期
対象年次	2年次		科目区分	必修		時間数	60時間
単位数	2単位		授業形態	実習			
教科書/教材	参考作品・参考資料等は、授業中に配布、掲示する。						
担当教員情報							
担当教員	荒川宇之輔			実務経験の有無・職種	有・W e bデザイナー		
学習目的							
今後のサイト制作に必要なスキルと感覚を身に付ける。モバイルファーストインデックスを考慮し、スマートフォンサイトのUIや構造の考え方を学ぶ。ベースとなるHTMLコーディングのレベルを引き上げ、スマートフォンサイトの制作を乗せていく。実機検証研究を密に行い対応力を身につける。							
到達目標							
モバイルファーストをテーマにPC向けサイトのレスポンス対応のコーディング技術を身につけると同時に、U/IおよびU/Xにも配慮をし、実機検証まで行い現場のニーズに応えられる技能を身につける。最終的にはPC向けサイトとスマートフォン向けサイトの必要に応じたレスポンス対応ができるようになり、実機確認までのワークフローを身につけてデザインカンパまで論理的な提案ができるようになるのが目標。							
教育方法等							
授業概要	個人ワークおよびグループワークを取り入れ、コミュニケーションスキルを磨きながらコンテンツの制作を行う。1年次に学習した様々な技術や知識を結集し、論理的な考え方を推し進め、より効率的な技能を身につけられるように指導を行う。デザインカンパから実機検証まで行うことにより、より理解を深めてもらう。よって、一般的に求められるレスポンス対応には一通り対応可能となる。						
注意点	プログラミングは連続した知識が必要となるため、授業の欠席があった場合、必要な知識が欠如する可能性が高く、必要な技能が習得できなくなるため、可能な限り欠席をしない。授業内で得た知識を直ぐに利用して、次のことを行うため、自己による復習、活用が必要である。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	作文・課題	50%	課題を総合的に評価する				
	ワークシート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する				
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する				
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	レスポンスデザイン、リサーチ&研究			現状どのように活用されているのかを各自で検証を行い、リサーチ力を身につける。			
2回	レスポンスデザイン研究、発表			PCサイトと共存するためにはどのような形が現状ではベストなのか、各自の意見を発表してもらう。			
3回	レスポンス・スマホの概念と具体的な作業方法について			前提としてのHTML5+CSS3の復習と基礎技術の確認、作業環境を身につける。			
4回	レスポンスデザイン制作 ワイヤーフレーム、企画考案			リキッドレイアウトを利用したデザインの基礎の確認と応用を行う。			
5回	レスポンスデザイン制作 企画考案			ビューポートを利用したデザインの基礎の確認と応用を行う。			
6回	jQuery・画像アセット利用法など、 使える機能紹介			実践的なコーディングを行い、現場までの確認と今後の問題点を明らかにする。			
7回	レスポンス制作 実機動作確認			前回までに作ったコンテンツの実機動作確認を主に行い、問題点を理解する。			
8回	レスポンス制作 HTML5.2新機能学習			レスポンスイメージなど、HTML5.1以降の新機能について学び、理解を深める。			
9回	レスポンス制作 jQuery活用			レスポンスサイトにおける、U/I面への考慮としてjQueryの活用法を考えられるようになる。			
10回	レスポンス制作 U/IとU/Xについて①			SEOなど、現場で求められるスキルを身につけられるようになる。			
11回	レスポンス制作 U/IとU/Xについて②			EFOなど、現場で求められるスキルを身につけられるようになる。			
12回	レスポンス制作 デザイン&コーディング/実機検証①			仕様に基づき、指示通りのコーディングから動作確認が行えるようになる。			
13回	レスポンス制作 デザイン&コーディング/実機検証②			仕様に基づき、指示通りのコーディングから動作確認が行えるようになる。			
14回	レスポンス制作 デザイン&コーディング/実機検証③			仕様に基づき、指示通りのコーディングから動作確認が行えるようになる。			
15回	レスポンス制作 デザイン&コーディング発表			自分で作ったサイトについて論理だてて、他の人に説明できるようになる。			